

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業名：一般国道38号 釧路新道 <small>くしろしんどう</small>	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局
起終点：自：北海道釧路市新野 <small>くしろ にいの</small> 至：北海道釧路市北園 <small>くしろ きたぞの</small>	延長：8.8km	
事業概要：一般国道38号は、釧路市と帯広・道央方面を連絡する延長約300kmの主要幹線道路である。釧路新道は、北海道横断自動車道及び一般国道38・44号釧路外環状道路と一体となった釧路都市圏の広域環状道路を形成することにより、釧路市街地における交通混雑の解消、物流の効率化などを目的とした延長約8.8kmのバイパス事業である。		
S53年度都市計画決定 H4年度事業化		H4年度用地着手
全体事業費：約357億円		事業進捗率：82%
計画交通量：5,100~23,600台/日		供用済延長：7.7km
費用対効果分析結果	総費用 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 66/446億円 事業費：63/429億円 維持管理費：3/18億円	総便益 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 151/632億円 走行時間短縮便益：128/588億円 走行費用減少便益：17/30億円 交通事故減少便益：7/14億円
感度分析の結果：事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.5（交通量+10%） B/C=1.3（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.3（事業費+10%） B/C=1.5（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=1.2（事業期間+20%） B/C=1.6（事業期間-20%）		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（年間渋滞損失時間の削減が期待される） ・物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる） ・他のプロジェクトとの関係（関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり） 他9項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 釧路市を始めとする関係1市6町1村の首長で構成される期成会等より、地域間連携や地域経済の活性化を図るため、事業促進の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成17年10月に、釧路市・阿寒町・音別町の3市町が合併し、新『釧路市』が誕生した。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成4年度より、工事着手して、用地進捗率100%、事業進捗率82%となっている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代前半の事業完了を予定している。		
施設の構造や工法の変更等 盛土形状の見直しによる土工量の低減などにより、コスト削減を図っている。		
対応方針：事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。